

点を経歴す。然りと雖も下せし所の下種純熟の故に時至りて自ら繫珠を顕す。但四十余年の間、過去に
 已に結縁の者も猶謗の義有るべきの故に、且く権・小の諸経を演説して根機を練らしむ。問うて曰く、
 華嚴の時の別円の大菩薩、乃至、觀經等の諸の凡夫の得道は如何。答えて曰く、彼等の衆は時を以て之
 を論ずれば其の経の得道に似たれども、実を以て之を勘うるに三五下種の輩なり。問うて曰く、其の証
 拠如何。答えて曰く、法華經第五の卷涌出品に云く、「是の諸の衆生は世々より已來我が化を成就せり、
 乃至、此の諸の衆生は始め我が身を見我が所説を聞き、即ち皆信受して如来の慧に入りき」等云云。天台
 釈して云く、「衆生久遠」等云云。妙樂大師の云く、「脱は現に在りと雖も具に本種を騰ぐ」。又云く、「故
 に知りぬ、今日の逗会は昔成就するの機に赴く」等云云。經釈顯然の上は私の料簡を待たず。例せば王
 女と下女と天子の種子を下さざれば国主と為らざるが如し。問うて曰く、大日經等の得道の者は如何。
 答えて曰く、種々の異義有りと雖も繁きが故に之を載せず。但所詮彼々の経々に種熟脱を説かざれば還
 りて灰断に同じ。化に始終無きの経なり。而るに真言師等の談ずる即身成仏は、譬えば窮人の妄りに
 帝王と号して自ら誅滅を取るが如し。王莽・趙高の輩外に求むべからず。今の真言家なり。
 此等に因りて論ぜば、仏の滅後に於て三時有り。正像二千余年には猶下種の者有り。例せば在世の四十
 余年の如し。機根を知らずんば左右無く実経を与うべからず。今は既に末法に入りて在世の結縁の者は
 漸々に衰微して権実の二機皆悉く尽きぬ。彼の不輕菩薩末世に出現して毒鼓を撃たしむるの時なり。而
 るに今時の学者時機に迷惑して、或は小乗を弘通し、或は權大乘を授与し、或は一乘を演説すれども題